

施設の課題の整理について

1 施設の課題

施設の利用状況や維持管理状況等を踏まえ、次のとおり課題を整理する。

プール

- ・屋内プールにも関わらず、利用者数に偏りがあるため、年間を通じて活用される施設にする必要がある。
- ・学校のプール授業を受け入れている実績から天候に左右されず質の高いプール授業につながる可能性や、学校のプールの維持管理経費の削減等を踏まえ、プール授業の更なる受入を検討する必要がある。
- ・人口減少や高齢化社会が進行する中で、これまで通りウォータースライダーや流水プールなどのレクリエーション機能の性質が強い施設とするか検討する必要がある。

障害者プール

- ・障害者プールについては、利用状況や首都圏のプール施設の状況等を踏まえて、在り方を検討する必要がある。

会議室等

- ・会議室及び講習室の稼働率が低く、また、無料で利用できる大広間や娯楽室については、受益者負担の観点からサービスの提供(有料化の検討)について外部監査から指摘を受けており、機能変更を含めて在り方を検討する必要がある。

余熱利用

- ・北清掃工場からの余熱を最大限に活用した運営や、蒸気の供給が停止する期間においても施設が有効活用されるような施設の在り方を検討する必要がある。

共通

- ・本施設の魅力を高めるため、近隣の公共施設等の機能や役割、周辺の自然環境を踏まえ、施設の在り方を検討する必要がある。また、近隣施設等との連携が必要である。
- ・多額の維持管理経費が発生しているため、維持管理経費の削減とともに利用料収入の増加を図る必要がある。
- ・市民サービスの向上、施設の効率的な運営、財政負担の軽減を図るため、情報通信技術の活用、施設の改修等や運営を一体的に考えるなど民間事業者の参入を促す施設の在り方も検討する必要がある。
- ・リニア中央新幹線の駅が橋本駅周辺に設置されるなど、今後、周辺地域への人の往来や交流の増加が見込まれることを踏まえ、長期的な視点からも施設の在り方を検討する必要がある。

2 施設の具体的な検討に当たり踏まえておく事項等

施設の課題のほか今後の検討に当たって踏まえる事項等を、次のとおり整理する。

- (1) 本施設は北清掃工場の余熱を有効活用し、通年利用が可能な温水プール等のスポーツ・レクリエーションを中心とした複合施設として建設された（平成 11 年 5 月開所）。
- (2) 本市緑区の人口は、今後一貫して減少する。また、65 歳以上人口比率は 2040 年に 37.6%、2060 年に 41.9%となる一方で、0～14 歳人口比率は 2040 年に 10.0%、2060 年に 8.7%になると推計。
- (3) 令和元年度の経常収支比率は 99.8%で市の財政は硬直した状況になっている。
- (4) 相模原市都市計画マスタープランにおいて、隣接する相模原北公園は「みどりの拠点」に位置付けられており、検討に当たってはエリアを一体的に考える必要がある。
- (5) 相模原市公共施設の保全・利活用基本指針では、公共施設の改修・更新のピークを迎える今後 30 年間に於いて、市施設全体で 20%の延床面積を削減する目標を掲げている。
- (6) 本検討委員会では施設のコンセプトや機能等を検討し、改修等の手法については民間事業者へのサウンディング調査等を経て行う予定である。なお、大規模改修は既存施設の躯体等を活かし、諸室の機能変更等を行うもので、建物の構造の大きな変更等は行わないことを想定している。また、様々な手法を検討するため、施設に必要な機能を維持した上で、建物の規模を小さく建替える手法も選択肢の一つとしている。